

平成24年度

我孫子中学校学校評価報告

1 ねらい

・教育活動、その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき教育活動・学校運営の改善を図る。

2 アンケート実施期間 平成24年12月

3 対象者 生徒1031名、全保護者1031名（延べ人数）、全教員46名

4 回答率（%）

	生徒	保護者	教員
回答数	981名	958名	46名
回答率	95.2%	92.9%	100%

5 アンケート結果と考察

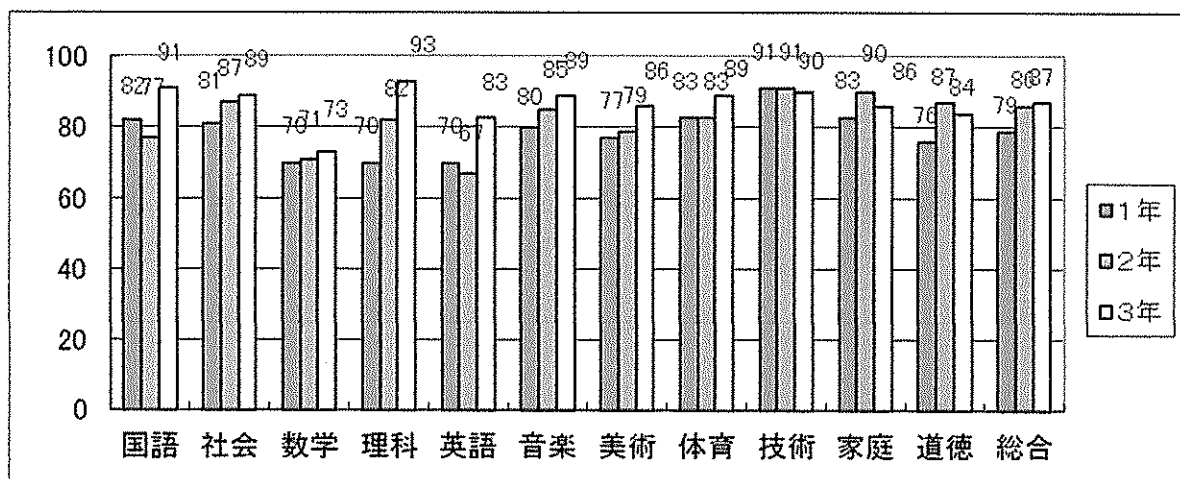
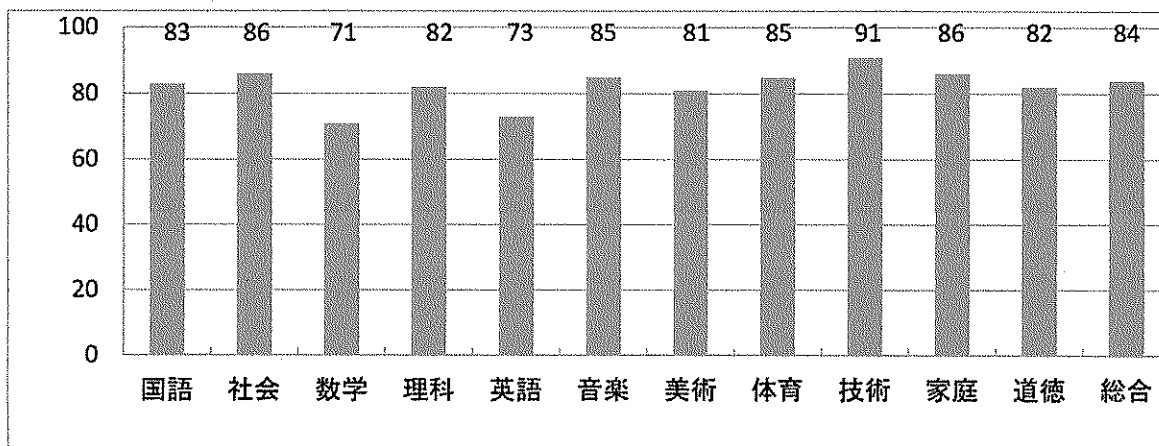
【生徒】

（1）生徒の各教科への取り組みについて

質問：興味・関心を持って取り組み、よく理解できる。

「そう思う、だいたいそう思う」と答えた生徒の割合

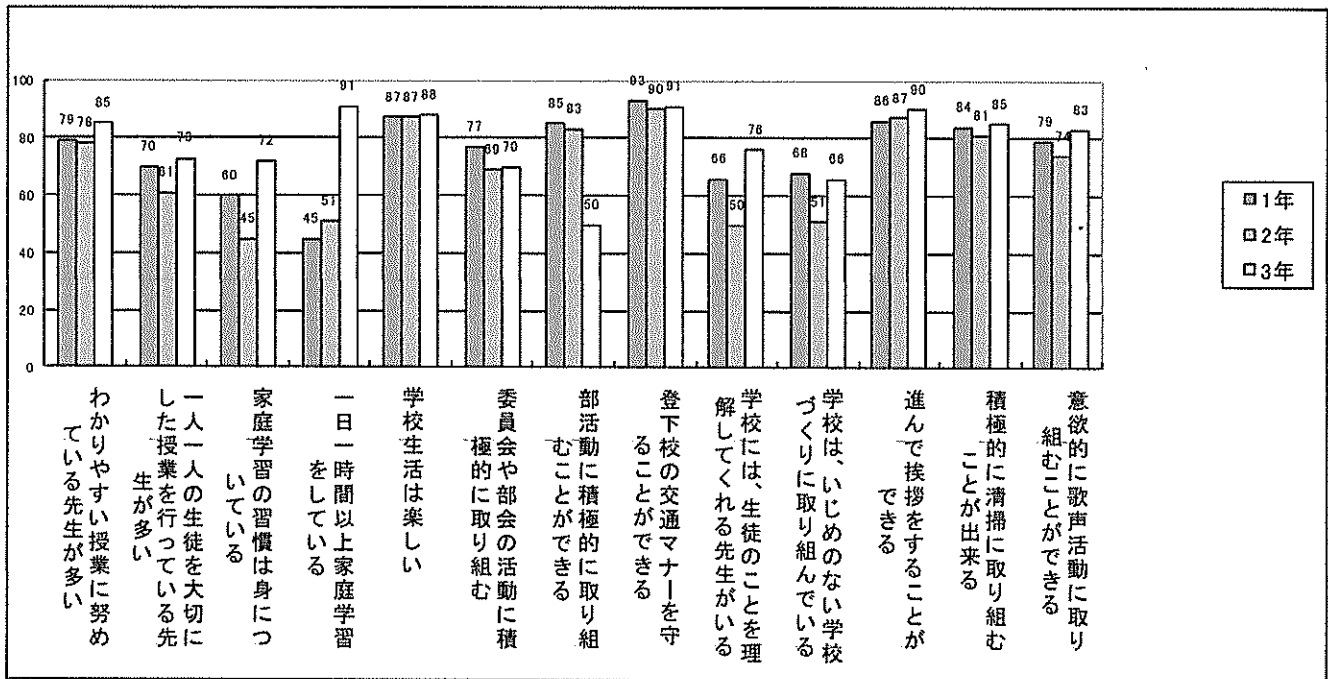
全校生徒（平成24年度）



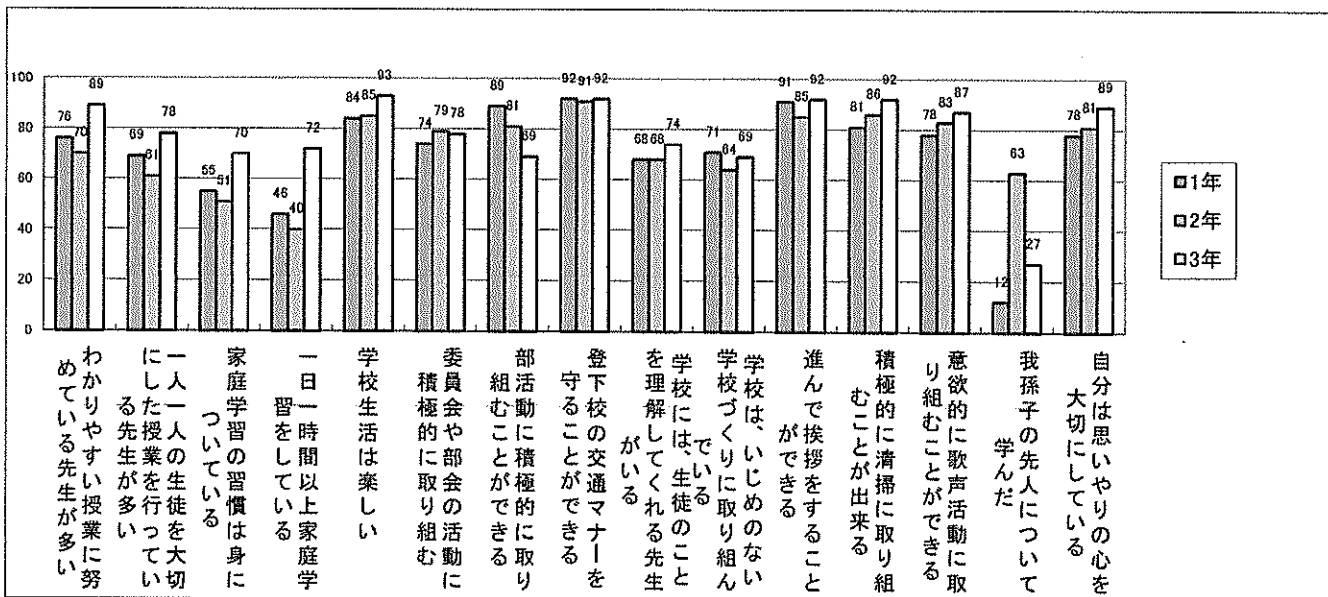
・国語、社会、理科、体育、音楽、美術、技術、家庭に関して、「興味関心を持って取り組む」生徒は、平均して8割を超える。学年がすすにつれて、増加の傾向がみられる。これは、1年生は中学生の学習に戸惑っている可能性がある。

- ・数学に苦手意識を持ち、意欲的に取り組めずにいる生徒の割合が多い。
- ・英語に関しては、小学校の英語活動と中学校英語学習のギャップにとまどっているのではないかと考えられる。

生徒の学習と生活について 平成 23 年



平成 24 年



・「家庭学習の習慣の定着」についての質問には、昨年度59%から今年度は3学年平均59%と横ばいである。3年生は72%から70%と減少しているが、2年生が45%から50%と伸びている。しかし、「1時間以上学習する生徒」は昨年度の3学年平均63%から53%と減少している。塾の学習を除くと質問に明記したせいもあるだろうが、今年度の目標「7割以上」を達成できなかった。家庭学習の大切さ、復習する大切さを生徒に訴えるとともに、どのように推進するかを研究していかなくてはならない。

・学校生活はどの学年も80%以上の生徒が楽しいと感じている。(3年生は、93%と高い割合である。)

・挨拶・清掃・歌声活動に約80%～85%を越える生徒が取り組んでおり、自ら積極的に諸活動に取り組んでいる様子がうかがえる。

・1年生より2年生のほうが部活動への積極的な取り組みが低い。3年生は、部活動を終了しているので、部活動への取り組みの評価が低い。

・「分かりやすい授業に努力している」の評価は昨年度より、1・2年生の評価が低下しているが、3年生は高くなっている。

「一人一人の生徒を大切に授業」

「生徒のことを理解する教師」

「いじめのない学校づくり」

の評価は、70%を下回っている。(学年を平均すると1%、6%、6%とわずかであるが伸びがみられる。)教師がチームとして一層きめ細やかに生徒を観察し、情報交換の時間を作り必要な支援をして行かなくてはならない。

・今年度我孫子市教育委員会で作成した「我孫子の先人たち」を授業で活用し、我孫子に「誇り」を持つ人間になれるよう取り組んでいる。初年度でもあり、2年生で気象学の父「岡田武松」先生についての学習が印象に残っているようである。

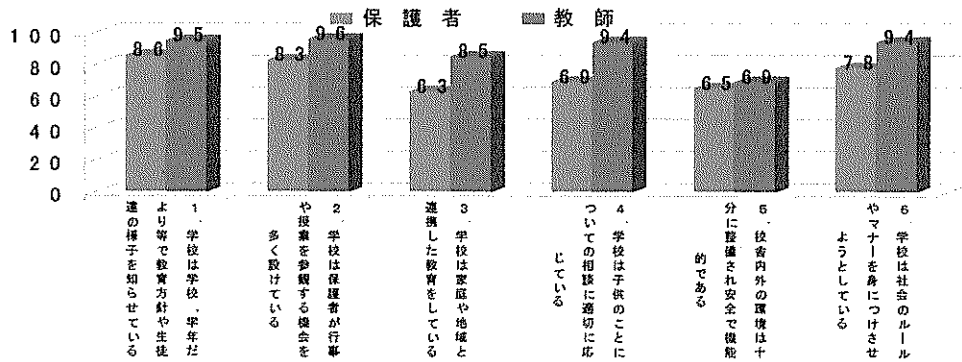
・学校教育の重点に『思いやりの学舎』づくりを掲げて取り組んできた。1年・2年・3年と、学年が上がるにつれて『思いやりを大切にしている』生徒の割合が上がっている。今後も、指導を続けていきたい。

【 保 護 者 】

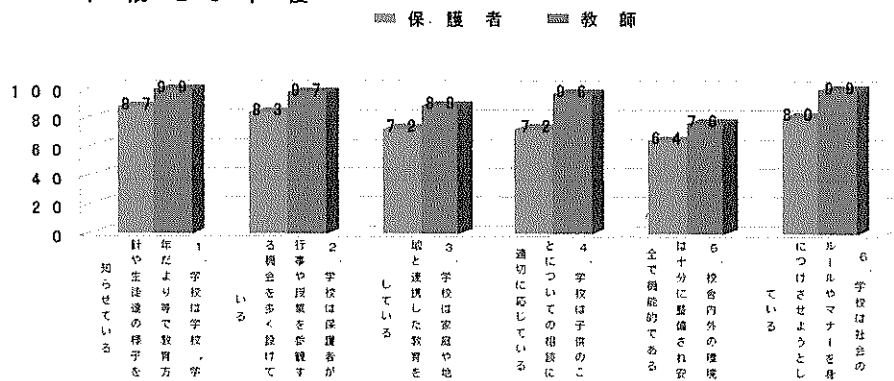
＜教師と保護者と教師（と生徒）の回答を比較してグラフ化した＞

(1) 学校運営について

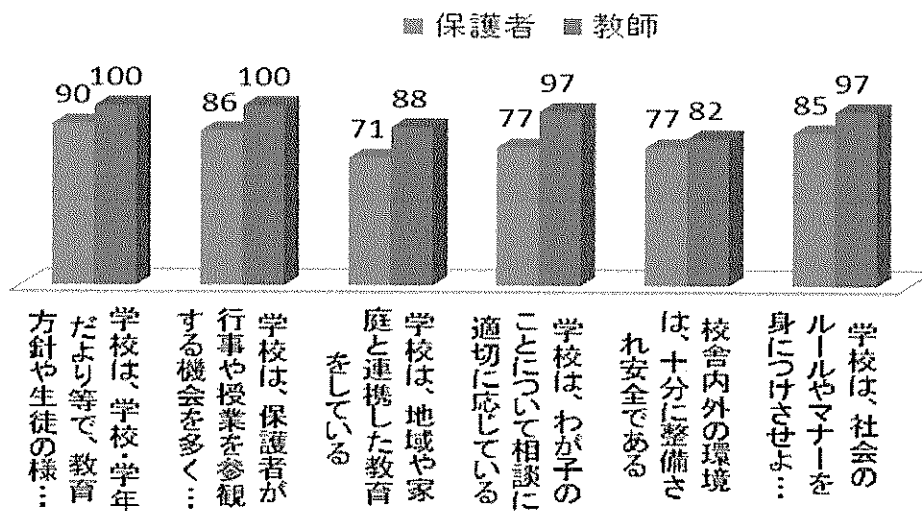
平成22年度



平成23年度



平成24年度



・学校だよりや学年だより、ホームページなどを活用しての情報公開に関しては、90%の方がおおむね満足か満足である。部活動の取り組みや結果に関して一層ホームページの活用を進めたい。

・授業参観週間では、来校しづらいという意見を受け、参観日を設けるようにしており、86%の方の支持を得ている。今年度、1学期の歌声交歓会の参観案内ができずご迷惑をおかけするということがあった。来年度、今年度以上に参観しやすいよう、案内・受け入れの工夫をしていきたい。

・「家庭や地域と連携した教育」に関して、保護者と職員の意識は横ばいである。学校の教育内容を伝えたり、生活記録帳を通じて連携を密にしたり、家庭学習についての協力をお願いしたり一層連携してまいりたい。

・「子どものことについて相談に適切に応じている」と回答した保護者が77%と昨年より5%増加している。満足せず、さらに生徒の成長のため相談しやすいようにしたい。

・「校舎内外の環境整備」は、保護者・教師共に80%近い理解を得るに至った。毎日の清掃活動、校庭の夏休みの除染工事の成果と考えられる。また、地域支援本部事業としてボランティアの方が園庭の整備に積極的に取り組んでくださったことの成果も大きい。トイレの大規模改修ができずに残念である。

・「ルールやマナーを身につけさせようとしてる」には85%（前年より+5）の保護者の方が、理解を示してくださっている。一層、どのような指導をしているかを周知し、協力を求めるような広報活動をしていきたい。

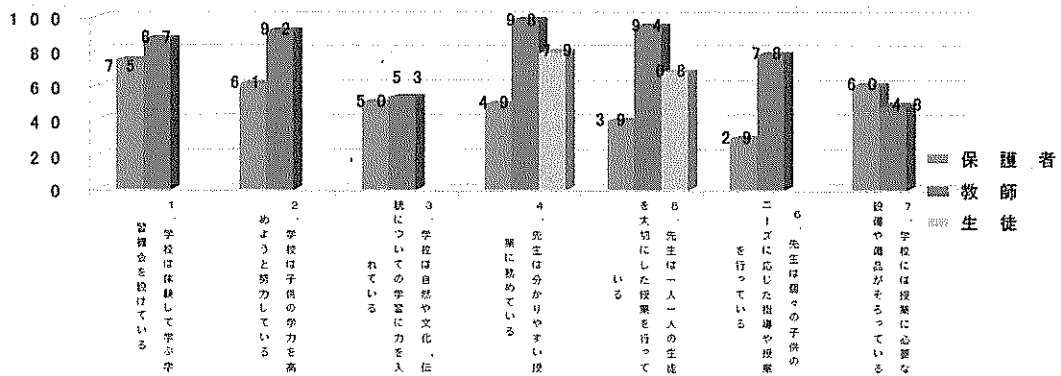
※どの設問に関しても保護者と教師の差がある。少しずつ保護者の方の理解が高まっている。セクハラ相談窓口、全体としての相談窓口、研究所に設置された「いじめ・悩みホットライン」の周知をさらに進めたい。

情報の公開に関して、生徒の個人情報に関係することやトイレの軽微な破損などに関して、お知らせをしない場合がある。

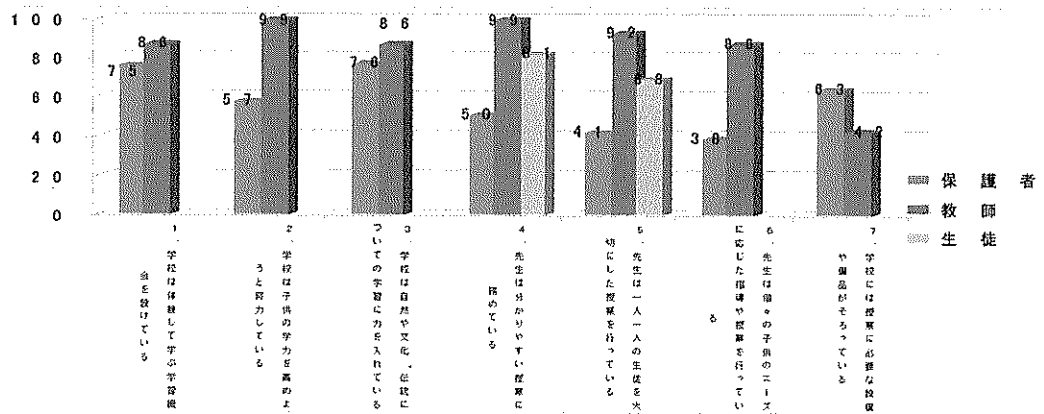
また、学校として、一人の教師として保護者の方への積極的なアプローチを進め連携を深めるとともに生徒との教育相談、保護者との教育相談の充実を目指したい。

(2) 学習指導

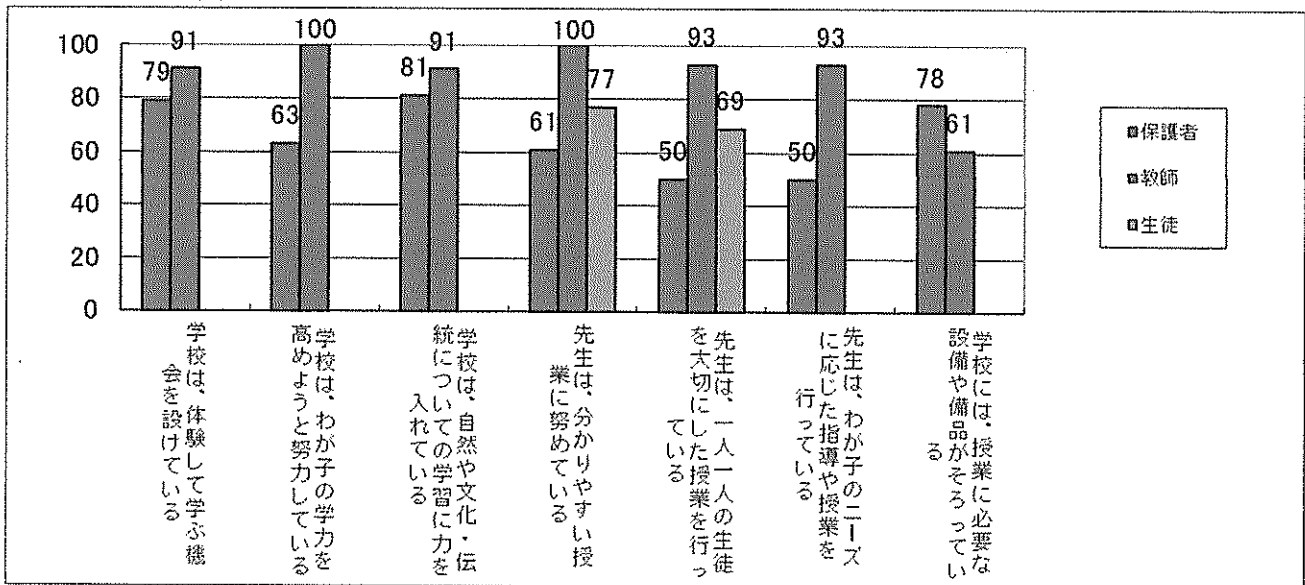
平成 22 年度



平成 23 年度



平成 24 年度



・ほとんどの設問で、保護者と教師の認識の差が大きい。学校としての一層の研修・啓発活動の必要がある。一方、わずかの割合であるが、保護者の方に学校教育の様子が伝わっているという項目もある。

・「体験活動の機会を設けているか」、「自然や文化伝統についての学習に力を入れているか」では、約80%高い評価を得ている。

・「わが子の学力を高めようと努力しているか」の評価は、63%にとどまっている。

後述の「分かりやすい授業」、「一人一人の生徒を大切にした授業」、「個のニーズに応じた学習」に力を入れていないと評価していることによると思われる。授業で、「どのように教師が工夫をしているか。どのような研修を行っているか」を生徒にも保護者の方にも分かりやすく伝えることが必要である。そして、実際「生徒が（生徒の学力が）変わった」とう結果が目に見える形で出さなくてはいけない。新年度、すべての公立小中学校で実施される全国学力テストや年度末の千葉県標準学力テストが指標となる。また、教員の教科部会を活発に開催し教科指導の方法の研修や教材開発を通し授業力の向上につなげたい。

・「わかりやすい授業」 49%→50%→63%(平成24年度)

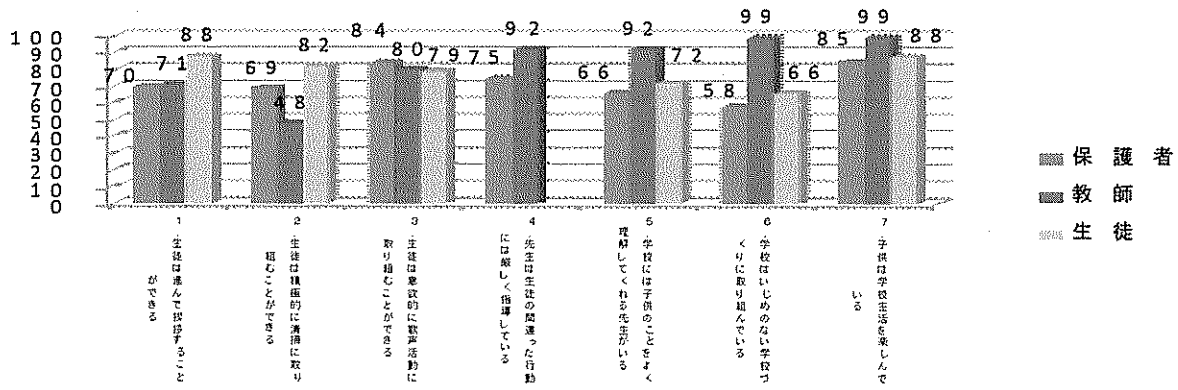
・「一人一人の生徒を大切にした授業」 39%→41%→50%(平成24年度)

・「生徒のニーズに応じた授業」 29%→38%→50%(平成24年度)と、わずかずつではあるが、肯定的な評価が高まっている。

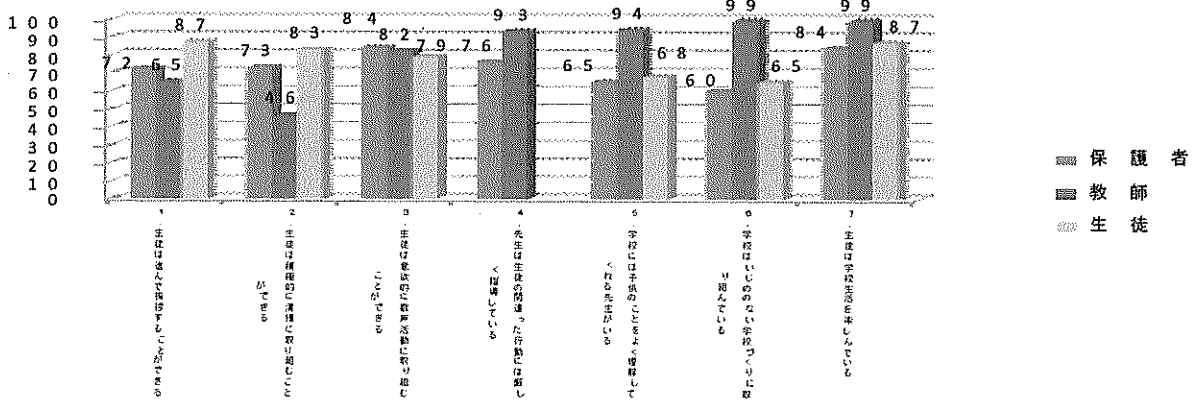
・保護者の78%、教師の約61%が、学習に必要な備品がほぼ満足いく状態にあると答えている。ICT機器の活用に関して一層の教員の努力が必要と考えている。また、各教科に必要な備品の購入を計画的に進める必要がある。

昨年度より「良い学級集団」は、「良い学習集団」である。という仮説をもとに、Q-U検査を行い、その結果から、学年を主体に生徒のニーズに応じて、授業や学校生活で声掛けや配慮していく事柄を共通理解し指導に当たってきている。来年度もより良い学級集団作りを目指して研修を進めていきたい。

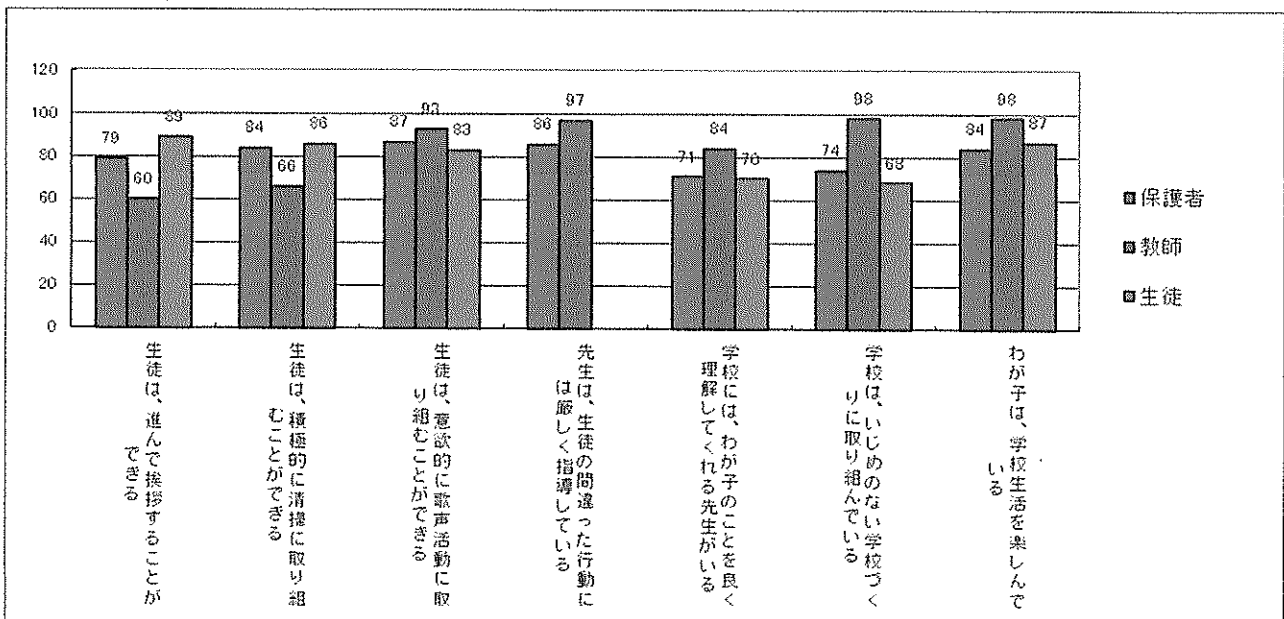
(3) 生徒指導について
平成 22 年度



平成 23 年度

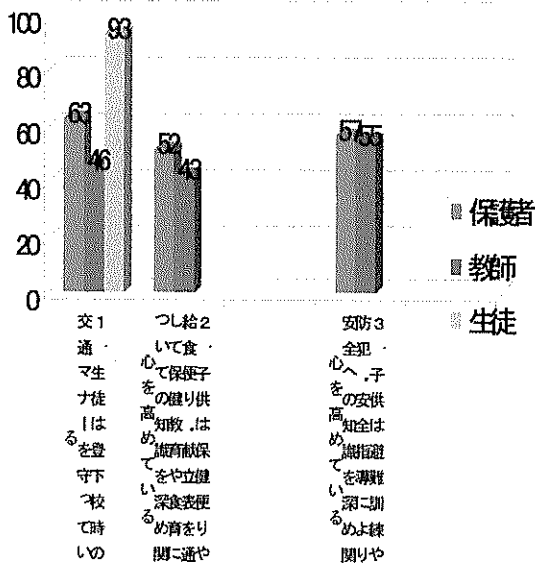


平成 24 年度

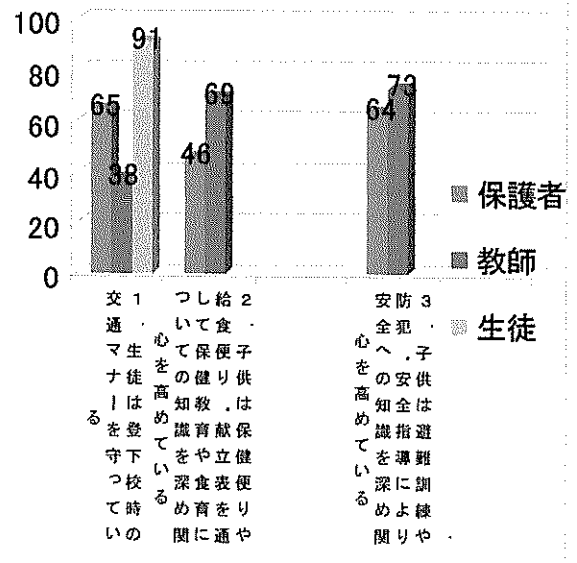


- ・「挨拶」については、生徒はおおむね良好であるが、保護者79%、教師60%と低い評価である。学級指導や部活動指導で挨拶の大切さを訴え続けるとともに、教師からも積極的に挨拶を行うことや生徒会活動としての挨拶運動を展開したい。
- ・「清掃」について、生徒86%がおおむね良好である。教師は、昨年度の46%から66%へ大きく伸びており、今年度の清掃指導に一定の成果があったと考えられる。
- ・「歌声活動」については、昨年度以上の高い評価がみられる。
- ・「生徒の間違った行動には厳しく指導している」に関して、保護者との連携を密にするよう全職員心がけ、保護者の方も86%が、「大体そう思う」「そう思う」という評価をえた。該当する生徒の保護者と継続した連携を一層保っていきたい。
- ・「生徒理解」に関しては、保護者71%（昨年度65%）と評価が低い。教師と生徒との信頼関係構築に努めるとともに、定期的な教育相談のみならず毎日の観察、チャンス相談、生活記録を効果的に活用し、また、一人の生徒の良さ・特質を複数の教員の目から見つて積極的に情報交換するよう努めていく。
- ・「いじめ撲滅の取り組み」は、我孫子市で年2回の実態調査・追跡調査をしていることや、学校としても取り組んでいることを広くアピールする必要がある。『学校だより』に掲載したり、『生徒指導だより』に取り組みを紹介していくことを考えたい。
- ・「学校生活を楽しんでいる」という設問に関しては、昨年度同様、三者ともに学校生活が楽しいという割合が84%以上である。さらに多くの生徒が、「楽しい」と感じられるように努力していきたい。

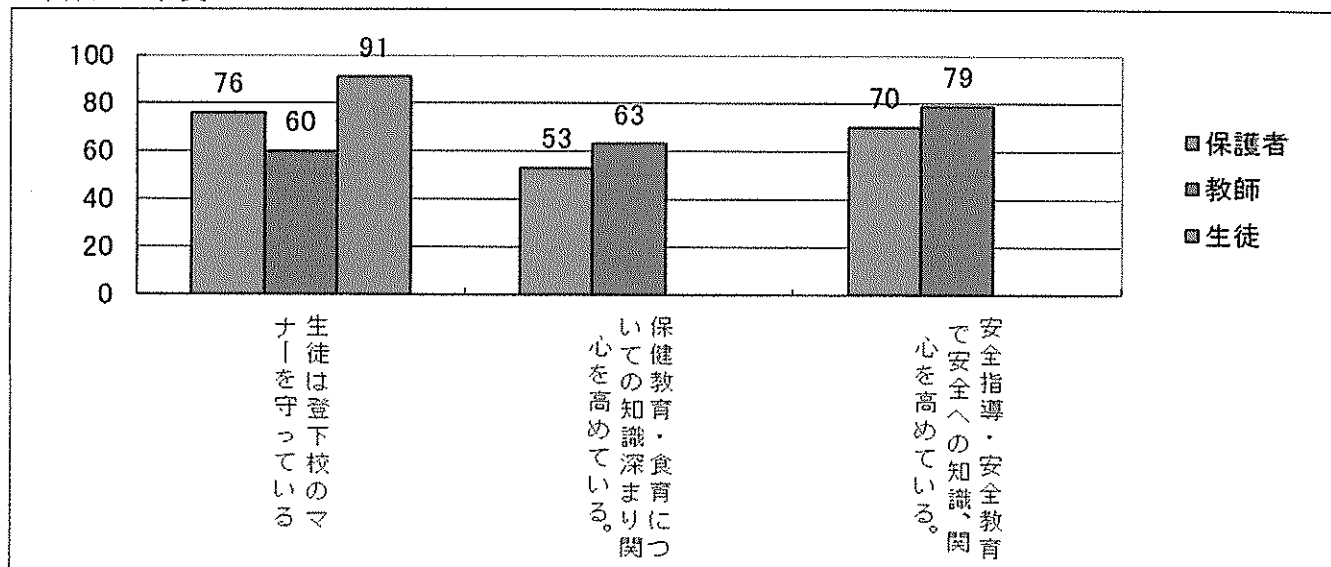
(4) 健康・安全面について
平成22年度



平成23年度



平成 24 年度



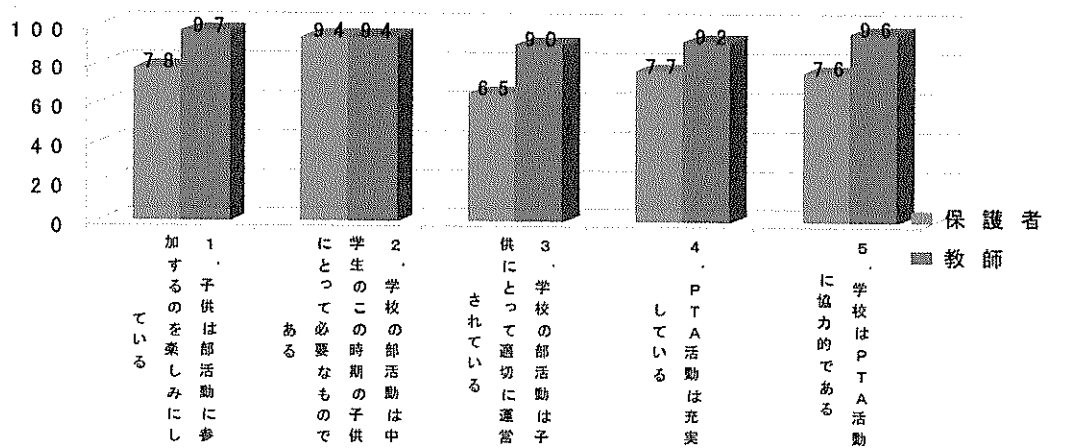
・登下校のマナーに関しては、保護者、教師の意識と生徒の意識が大きく違っている。生徒は守っている（91%）という認識であるが、保護者の76%、特に教師はマナーはあまり良くない（60%）という認識がある。しかし、昨年度の教師評価38%からは、大きな伸びがみられた。今後とも、徒歩通学者は歩道の幅・交通量に応じたマナー、集団になったときのマナーについて、自転車通学者は、自転車通行のルール遵守の徹底などを行っていききたい。これが、命を守ることにつながることを認識させたい。

・保健日より、給食日より配布しているだけではなく、その内容を指導するなど一歩踏み込んだ取り組みが必要である。また、保健体育や家庭科の授業内容を一層充実させたい。

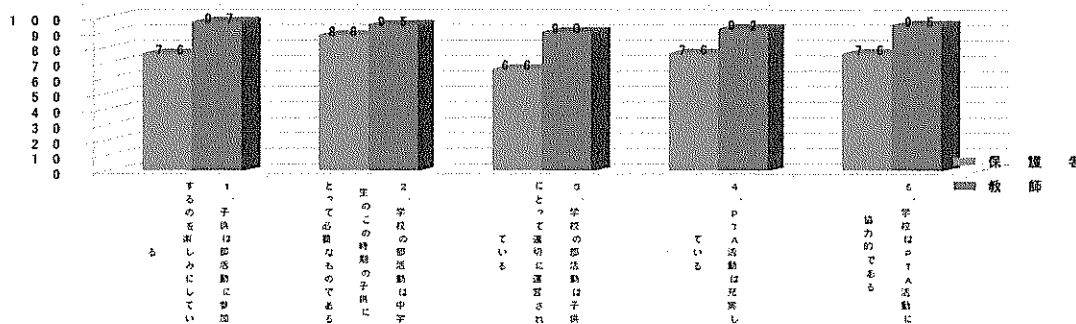
・防犯、安全指導に関して、防犯・安全予知能力の育成まで日頃の生活・学習で指導していかなくてはならない。避難訓練(地震や火災、不審者の侵入に関して今年度おこなった)の大切さをさらに訴え続けていきたい。また、危機管理マニュアル・防災マニュアルを再検討したり、緊急時に必要な物品を購入したりするなど、計画的に進めていきたい。

(5) 部活動・PTA活動について

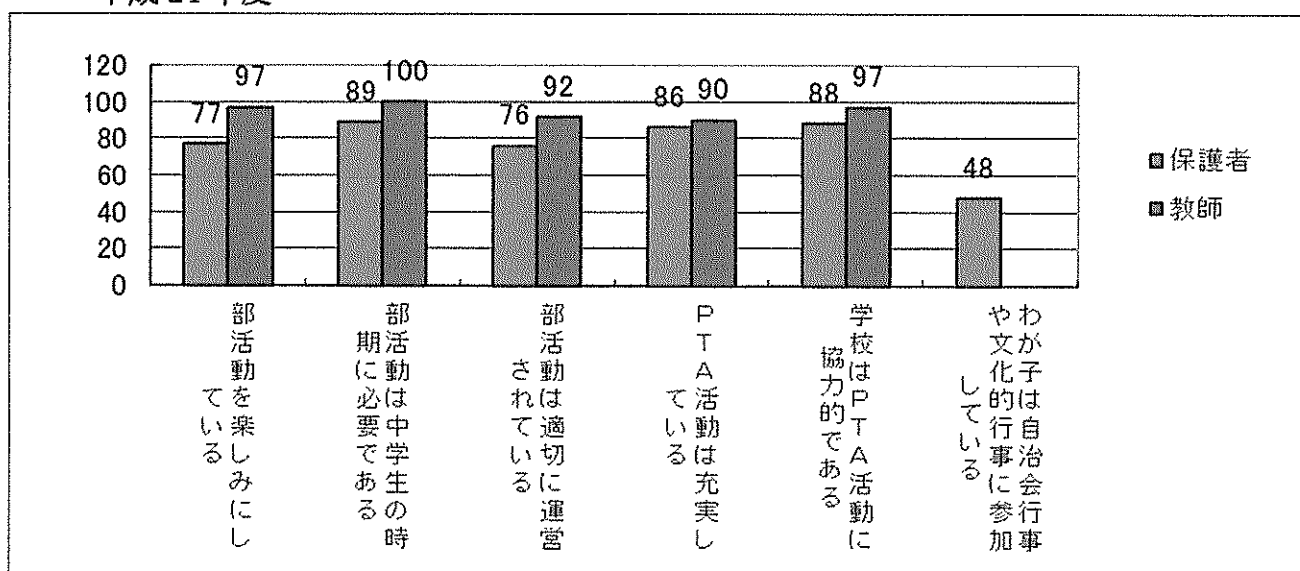
平成 22 年



平成 23 年度



平成 24 年度



・ 中学校の時期の部活動の大切さは良く理解していただいている。部活動の運営や予定表の配布時期、顧問教師の言葉遣いなどに関して多くの意見を頂いている。指導に当たって、千葉県小中学校体育連盟からいただいた3指針を理解し、体罰を絶対しないと肝に銘じ指導に当たっていく。また、「部活動をやり過ぎ」と「もっと部活動を厳しく」と両極のご意見をいただいている。

・ 「部活動は適切に運営されているか」に関しては、昨年度より10%評価が高いが、保護者、そして生徒自身の理解を得て充実した部活動運営を今後さらに進めていく。

・ 「PTA活動は充実しているか」「学校はPTA活動に協力的であるか」に関して、86%、88%と高い評価をいただいた。PTA本部役員の皆様や学級役員の皆様の努力・活動によるところが大きいと考えられる。本当にありがたいことである。

保護者アンケート自由記述より

<内容と考察 ・ 改善策案>

<学習指導>

- (1)到達度テストなどで点数が取れない生徒への補講をしてほしい。
→到達度テスト前の質問会を開催している。また、提出物が出せない生徒に対して、部活動の時間に教室で提出物を行わせることもある。
その日の授業の疑問点をすぐ解決するように、教科担任や友達に質問する習慣作りも進めたい。
- (2)教科担任による授業進度・教え方の上手さの違いに関する不安。魅力的な授業で生徒のやる気を引き出して欲しい。分かりやすい授業の展開を求める。
→教科部会で、教材の指導方法について話し合う。授業で使うプリントなどを統一し、進度と指導方法の差が出ないよう連携を密にする。
教材や題材の提示方法、興味関心を引くためのICT機器の活用、グループ学習を進めるための研修を活発に行う。
その時間の学習課題をはっきりさせ、授業の最後に確認するなど授業の進め方を工夫する。
- (3)何事においても「自分で考えて」と突き放すのはどうだろう。
→学習場面において、「教えるべきこと」と「考えさせるべきこと」をはっきりさせ指導をしていく。考えることで、知識の定着を進め、課題を自ら解決する力をつけさせたい。生活場面でも、中学校生活・共同生活に必要なことは、最初は教えるが、「自分で考え、行動できる」力がつくように指導していきたい。
- (4)到達度テストを1日でやるのは反対です。5教科を覚えるのは大変です。部活動停止期間を7日間にして欲しい。
→到達度テスト前の諸活動停止期間は、今年度同様で行いたい。到達度テスト前、学習計画表を3週間前に配布し、計画を立て、毎日担任がチェックし家庭学習を促している。
到達度テストは、授業時数の確保の意味があり1日で行う。また、公立高等学校の学力検査も数年前から1日で行っており、それに備えるという意味もある。
- (5)家庭学習充実のためにも、宿題をもっと出してもよいと思う。
→学力向上が、学校教育の目的の一つである。家庭学習を定着させ、1日1時間以上(塾を除く)行うことができる生徒を育てることを目標に取り組んできた。実際は、3年生を除いて達成できず、全校平均では53%の生徒であった。来年度、家庭学習の定着に向けて、過度にならないような宿題を出すことは必要であると考えます。
- (6)受験前に、連日持久走をさせるのはどうか。「4月より記録を落とすな。」という声掛けはいかがなものか。

→冬期間の持久走は、体力向上のために続けたい。タイム設定を自ら行い、自分の気持ちに負けないよう、激励したい。教師のはたらきかけも丁寧に行う。

<生徒指導>

- (1) 厳しいことは賛成であるが、指導の一貫性を持って取り組んでいただきたい。
→生徒指導部会・学年生徒指導の機能を十分生かし、一貫した指導体制をつくっていく。何がよく、何が悪いのかを誤解しないように伝えていく。
- (2) 日常生活では規則正しくという教育と同時に思いやりとたとえ間違っても大きな心で許す。怒るのではなく諭すという考えも加えてほしい。
→生徒の特性や状況に応じて対応をするが、教師はチームとして対応していき独りよがりの指導にならないよう心掛ける。
- (3) 中学生になって要求されるが多すぎる。
→成長に応じて、責任を持ち行動する力をつけていきたい。ただし、過度な要求になり、生徒が大きな負担を感じないように、複数の教師の目で一人一人をよく見ていき、情報交換を密に進めていく。
- (4) 正門を出て右に行く我孫子駅に向かう自転車は逆走してもよいことになっているのでしょうか。車と接触しそうで怖い。
→自動車学校までは、自転車を押して歩道を歩き、広い歩道になるところで歩道の上を自転車に乗っていくこととしている。再度、生徒に説明し、事故が絶対起きないようにする。
- (5) 下校時集団でおしゃべりをして、車が来ても気にせず続ける。完全下校の意味がない。登下校のマナーに関して十分とは言えない。広がって他人の迷惑になっていることがある。
→しばしば、自転車通学者を昼休みに集め指導をしたり、学級で交通ルールについて担任が指導をしたり、教員が校外指導に立ったりしている。今年度以上に、完全下校の順守とマナーを指導していく。
- (6) 「連帯責任」として罰を課すという指導方法が行われているようである。その必要性について学校の考えを教えて欲しい。
→安易に「連帯責任」として罰を与えるような指導は行わない。部活動の指導上、チームとしての意識の向上・体力の向上のために集団指導をすることがある。それが「連帯責任で罰を得た」という意識でとらえられないように、十分生徒に説明していきたい。
- (7) 冬場の女子の足元が寒々しい。保健教育の観点からハイソックスやタイツを抵抗なく着用できる雰囲気になるといい。
→冬場の服装の着用方法の指導を進めている。保健指導でも確実におこなう。これ以外、雨天時の長靴の使用も勧め、状況に応じて柔軟に対応していく。
- (8) 生徒同士で注意しあう学級経営は、いじめにつながる可能性がある。

→生徒会を中心とする委員会活動、呼びかけ活動、学級内の班活動など子ども同士が関わり合い、学級生活の向上を目指している。注意が、過度にならないよう担任を中心に教師がしっかり見ていく。

(9)注意する際、複数の先生で行うことは生徒が委縮してどうかと思う。

→個別での生徒指導をする場合、複数の教師で行うことを基本としている。そのようにして、指導の行き過ぎや不祥事がないようにしている。1対1で行うときは、密室ではない場面で行うこととしている。

(10)生徒の休み時間の教室での様子を把握するとともに、相談しやすい環境づくりをお願いしたい。

→生徒と共に様々な活動をし、生徒との信頼関係をつくるのが大切であり、これをもとに学級づくりが進む。生徒の悩みを傾聴するカウンセリングマインドを持ち、相談活動も進めていきたい。

(11)挨拶を積極的にする生徒が減ってきているのではないか。家庭の問題とは思いますがもっと指導をお願いしたい。

→生徒自身の評価は、89%がおおむね良好であるが、学校外でのあいさつができないことがあると思われる。状況を判断し、挨拶をすることも考えさせたい。

<部活動>

(1)部活動後に着替え、自転車を準備していると時間が無くなって完全下校に間に合わないことがある。

→部活動をできる限り行いたいという気持ちであろうが、完全下校に間に合うように、顧問を指導していく。

(2)部活動の顧問として授業のように熱意をもって指導してほしい。適性のある方にやっていただきたい。

→教員の各学校への配置は、教科指導のバランスによるもので部活動が第一ではないので、未経験者や退職の近い先生方にもお願いしている。部活動数を減らすこともできず、非常に苦しい運営状況であり、保護者の方のご理解なしには全部活動の運営ができない状況にある。ご理解をお願いしたい。

(3)部活動の方針が入部してからでないとうわからない。上の子との差があり戸惑った。早めに知る工夫をお願いしたい。部活面談があってもよいのではないかと。

→1年生は、1学期の部活動の変更が簡単にできるようにしている。3年生まで続けられる部活動を選択するよう指導をしていく。5月の部活動保護者会で方針を伝えている。顧問への連絡は、必要に応じてお願いしたい。

(4)部活動の休みが少なすぎる。試験前の土日の遠征もやめてもらいたい。遠征が多く交通費・親の負担が大きい。移動も親に頼るのではなく、部活動で行ってほしい。

→部活動を熱心におこないたい生徒の希望にこたえ、個々の力量・体力を鍛え

チーム力をあげ、努力は報われるという勝利の喜びを伝えたいと熱心に指導にあたる教員の努力をくんでいただきたい。各種大会に参加することで得られる経験がある。到達度テスト前に関しては、大きな大会でない限り遠征について検討したい。移動に関して、バスの借り上げ、公共交通機関の利用をしている部活動もある。大会・練習試合の会場の関係で保護者の方のご協力を得たほうが便利な場合がある。また、部活動保険に加入しており保護者の引率に引率時の事故に対応している。(死亡・後遺障害250,000,000円 1名につき5,000,000円)

(5) 顧問の言葉遣いがひどすぎる。

→10名近い保護者の方のアンケートにあった。生徒の努力を認め声掛けをすること、ほめて伸ばす大切さ、コーチング法などについて研修を進める。

(6) 部活動の大会結果や活動のことをもっと紹介してほしい。運動部だけでなく文科系部活動に関してもお願したい。

→学校だより・学年だよりに今年度以上結果を掲載していく。また、学校のホームページにも各部活動の大会結果などがわかるように掲載していく。

(7) 学業と部活動の両立ができるよう生徒の立場に立って運営をしてほしい。

→学校生活をしっかりできることが、部活動を行う基本と考えている。学習に関しては、提出物が滞る場合は部活動の時間に、教室で提出物を完成させている。

(8) 部活動の月予定を定期的に出して欲しい。

→我孫子中部活動運営規定のひとつになっているが、確実に毎月予定の配布をするよう確認していく。

(9) 科学部の活動を活発にし、運動部と兼ねて行えるようにしてはどうか。

→今年度、科学部2年生の工夫工作が「千葉県総合教育センター所長賞」を受賞するという成果を上げた。理数科教育の大切さは周知のことであるが、2部活の所属で活動は事実上できない状況にある。

(10) 冬季トレーニングは必要でしょうか。

→冬季で完全下校が早い時期、部活動はほとんどできない。運動部として、体力作りは欠かすことができない。参加については生徒の希望を取っている。ほとんどの部活動は、部の練習の一環として冬季トレーニングに取り組んでいる。

(11) もっと文化部の活動に光を当てて欲しい。

→学校だより・学年だより等にも文化活動の成果を一層入れていく。また、ホームページでも一層の広報活動に努める。

<学校の施設等に関して>

- (1) 正門を閉じること、給食室側にも門を設け閉めて生徒の安全確保をお願いしたい。
→我孫子中敷地内に一般道があり門が設置できない。小学校のように安全指導員がおらず、完全閉扉は難しいが、正門はできる限り閉めるようにする。
- (2) ガラスが多い構造なので、避難訓練の時など十分指導をしてほしい。
→臨場感のある訓練を繰り返し、生徒自身がどの場面でも自分の命を守る力をつけさせたい。

<教師の指導に関して>

- (1) 受験指導に関してなど、教師の質的向上に向けても考えて欲しい。
→初めて高等学校受験(受検)を向かえる方は不安が大きいことと思う。受験の仕組み全体については、進路のしおりを通じてや進路保護者会でお伝えしている。また、疑問点に関しては担任や進路指導主任に連絡をお願いしたい。今後、若手教員が一層増加する時代になる。受験指導の経験豊かな教員を3学年に配置し、チームとして若手を育てながら受験指導に当たっていく。
- (2) 教員の注意での言葉遣い、態度が悪い。悪いことをして怒っていただくのはありがたいが、子どもが傷つく言葉を使う教師がいる。
生徒の話をしっかり聞かず、頭ごなしに怒ったり、否定するのはいかがなものか。
→生徒の話にしっかり耳を傾け、生徒との信頼関係をつくり、心に響く指導をしていきたいと考えています。今後さらなる教職員の研修を積んでいきたい。お気づきの点は相談窓口として、教頭2名が対応しますので連絡をお願いしたい。

<その他>

- (1) 外部の方を呼んでの講演会や歌声交歓会に参加できるように案内を出して欲しい。
→保護者の方に、積極的にご案内を出していきたいと考えます。全校生徒約1000名が対象になり、場所的に窮屈になる場合があるかもしれませんがご理解ください。
- (2) 給食がおいしくないようであるが。
→ご家庭の味と合わない場合があるでしょうが、自校給食を栄養士が献立を作成し調理員の方々が心を込めて作っております。今まで嫌いなものであっても少しでも口に入れ栄養にしていけることを引き続き指導していきます。
- (3) 放射線問題についての対策はPTAも学校も万全ではなかったと思う。
→校庭・園庭の除染が終わり、現在(2月末)テニスコートの除染が行われています。プールサイド表面の除染も昨年6月に終了しました。現在の校内の放射線量は、市のホームページと正門付近の掲示板に掲示している。

(4)加湿器を各教室においてほしい。

→P T A会費の一部を活用させていただき、各教室(特別教室を除く)に設置させていただいた。今年度は、2月末までインフルエンザのための学級閉鎖もなく学校生活を送っている。

(5)自動車で送り迎えをする保護者がいる。体育館側の坂道で生徒を下ろしたり、体育館前で生徒を下ろしたり危険なことがある。ルール作りが必要ではないか。

→昨年度、学校敷地内で保護者の車に小学校3年生がひかれ亡くなるという痛ましい事故が県内であった。特別な事情がない限り車での送り迎えは控えるようにさせたい。足のけがで松葉づえが必要等の場合、担任に申し出て、給食室横駐車場に車を止めるなどルールを決めて保護者の方に示していきたい。

(6)給食時の大きなテーブルクロスは衛生的ではない。個人のランチョンマットのほうがよいと思う。

→生活する班で、グループになり楽しく食事をするという観点で、このシステムが始まっている。週1回の洗濯であるが、清潔なトレイの上に食器を置き、この上で配膳・食事をしている。テーブルクロスの使用は続ける方向で考えている。

(7)このアンケートも密封して集計まで開封すべきではない。

アンケートに「わからない」という項目をつくって欲しい。

→無記名でお願いしており、密封して行う必要はないと考えている。資源の有効活用の観点からも、ご理解ご協力をお願いしたい。「わからない」という項目は、検討していく。